

2011年度も、昨年度と同様、薬剤師4名、事務員2名、計6名のスタッフでスタートした。薬局においては、医師の業務負担軽減および看護師サポートのため、休日勤務（土曜日）を開始した。また、薬剤師による抗がん剤の無菌調製も12月より開始した。昨年度からの継続活動として、看護師への医薬品に関するミニレクチャーも月1回行うとともに、医薬品データベースの構築をはじめ、適正な医薬品情報提供を推進し、医薬品のさらなる安全管理に努めた。

1. 休日（土曜日）勤務開始

これまで休日2日間はオンコール体制であったが、看護師による医薬品の取出しや、持参薬の確認等々、医薬品に関わる業務負担増や、休日非常勤医師のサポート体制が不十分など、医薬品の安全管理に問題が生じやすい状況にあった。そこで、薬剤師4人体制ではあるが、毎週土曜日に薬剤師1名の日直を開始した。2日間連続で薬剤師が不在とならないよう対応することで、休日における看護師および医師の負担軽減に努めることができた。また、これまで薬剤師不在時に発生していた2日間分の伝票処理に費やしていた業務が大幅に削減され、週明けの業務がスムーズに開始できるようになり、薬局内での業務効率化にも繋がっている。今後、人員増による体制強化を目指し、日曜日の勤務も視野に入れ病院全体のさらなる安全管理に貢献できるよう取り組んでいく。

2. がん化学療法における抗がん剤の無菌調製開始

当院においても、がん化学療法を受ける患者が多くなってきているおり、抗がん剤の調製が、業務負担となってきた。本来は2012年度、薬剤師を増員して取り組む予定ではあったが、無菌調製室の構築および安全キャビネットの設置を前倒しし、薬局内業務等を整理することで、2011年12月より全ての抗がん剤の薬剤師による無菌調製を開始した。開始に際しては、マニュアルの作成、レジメン管理、済生会熊本病院の協力による無菌調製の実施研修等々、各薬剤師が協力して本業務の運営に取り組んでもらった。その結果、60件以上の無菌調製を実施することができ、医師の業務負担軽減に大いに貢献できたと考える。今後は、特に外来施行の患者さんへの充実した薬剤管理指導が行えるよう各自の能力アップとともに体制強化に努めていきたい。

3. 看護師への「医薬品ミニレクチャー」と医薬品データベースの構築・活用

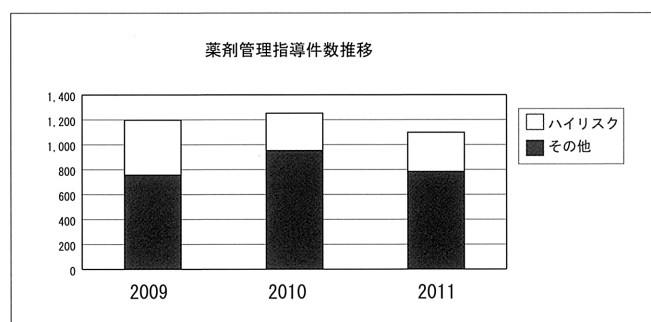
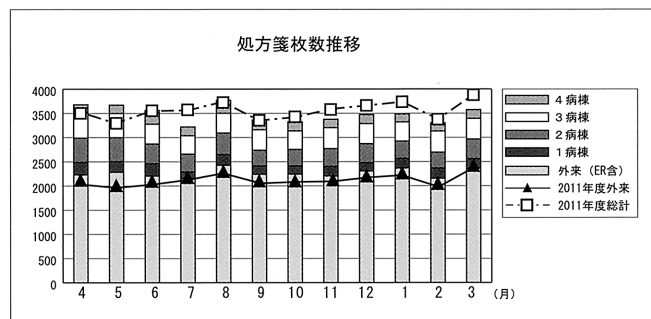
看護師に対して、リスクの高い医薬品に関するミニレクチャーを前年度より継続して行っている。薬剤師が病棟および外来に出向きスモールグループでレクチャーを行うことで、疑問等に対してもその場で回答し、より効果的に理解を深めることができたと考える。また、参加できなかった看護師が、いつでも、どこからでも資料を確認できるよう医薬品データベースに開示。この医薬品データベースには、医薬品検索をはじめ、簡易懸濁法や注射薬の配合変化について等々の看護師向け情報、院内・外発生の副作用・安全性情報、がん化学療法レジメン、研修会案内等々、医薬品に関する情報を集約。誰もがフリーに使用できるよう構築し、情報の共有化・一元化に努めている。今後も安全な医薬品の提供に多面からサポートできるよう取り組んでいく。

4. 外来および入院対応

外来調剤に要する業務量は年々増加しており、2011年度も薬局の中心業務であった。電子カルテを活用しながら、患者さんが理解しやすい言葉での服薬指導を心がけ、常に対話を意識し信頼関係の構築に努めることができたと考える。病棟においても、限られた時間内での活動であるため、チーム医療を常に意識し、病棟スタッフとの連携をうまく行いながら、患者さんに安心して安全な医療を提供できるよう努めた。また、医師の処方支援をはじめ、薬歴管理、禁忌薬管理、カルテ記録等々、一元化されたデータの効率運用にも努め、電子カルテの有効活用を推進。NST回診、ICT回診、緩和ケア回診等々にも参加し、求められているチーム医療に貢献できたものとする。また、持参薬の管理・運用について、2011年度は積極的に関わることができ安全管理に貢献できたとする。

5. 医薬品管理

2011年度も新規採用薬が多く、また、外来処方日数の増加もあり、在庫管理システムを効率よく活用しながら適正な在庫管理に努めるとともに、期限切れ医薬品の低減にも力を注いだ。これら医薬品管理については事務スタッフの貢献度が非常に高く、薬局に必要な不可欠な存在である。



抗がん剤無菌調製件数（2011年12月より実施）

抗がん剤無菌調製（件数）	62件
--------------	-----

2011年度は、医療機能評価 Ver. 6 受審という5年に1回の大イベントを乗り切ることができた。2012年度も、医薬品のエキスパートとして、病院全体の安全管理に大いに貢献できるよう薬局スタッフ一丸となって取り組んでいきたい。